
ごちゃまぜ

一月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ごちゃまぜ

【Nコード】
N2040Y

【作者名】
一月

【あらすじ】
短編ばかりでごちゃまぜです。
過去の遺物を編集。

灯籠流し

流した数だけ人間がいる。

流した数だ死んだ人間がいる。

流した数だけ記憶がある。

流した数だけ人生があつた。

「灯籠流しっていうのは死者を弔う為の儀式だろう？」

灯籠の紙を貼る彼女に彼は当たり前なことを問う。

「だから…どうした。この不法進入者」

屋敷に何故彼がいるのかはあえて問わない。そんなの、解りきつてゐる。

「不法じゃないよ」。恋人の実家にちよつとお邪魔しただけだよ？」

「恋人…ね。父上と母上が見たら泣くわ」

ごもつとも。

干支が一回りも違う相手に手を出すような男。殴らない親はいない。

「そついうことは言わないの。…折角みんなが還つてくるのに、辛くさくなつちゃうでしょ？」

「…るさい」

死んだ者は還つてこない。

だから命は尊くて。

「解つてる そんなこと」

それでもこんなことをするのは、未練があるから。

取り戻せないあの世界に少しでも、近づきたい。

「どうした？」

死んだ者の為に涙を流すことは無駄で、泣いてもどうにもならな

いことを知った。

尽きた肉塊を思うことは無駄で、果て無き想いを消す術を知った。
なのに、

「…あのさ」

この喪失感。

「泣きたいときには泣いていいんだよ？」

いつまでもこんな無駄な行為しない。

誰も責める人など居ないのだから。

「馬鹿じゃないの…このロリコン変態野郎…」

だから。

この人の手を取ってもいいですか？

感謝の言葉を

期待しないで
好奇の目で見ないで
特別扱いしないで
踏み込んでこないで
優しくしないで
触らないで

子供の頃の夢をみた。
全てを否定して、全てを拒絶する。
昔の自分。

十数年でこうも変わるのか、なんて。
「やっと起きたの、ぐうたら甲斐性無し」

昔の俺が知ったら、ショック死しちゃうよ。

「朝飯冷める」
期待されるのは悪くない。

「……」
期待されるのは嫌じゃない。
「どうしたの？」

この子になら踏み込まれていい。

「…なに」

優しくされるのは好きだ。

「何泣いてんのよ」

触れ合うことは愛し合うことで。

俺は総てを肯定することは出来ないけど。

今の自分は割と気に入ってる。

それは、

「…君が愛しすぎて」

あなたのお陰かもしれない。

幼かった俺に、人を慈しむことを教えてくれたから。

「…あほ」

ありがとうございます。先生。

アンテナ

繋いでいたいよ。

君の声。

繋いでよ

途切れる声。

君は俺の電波塔。

俺は君のアンテナ。

心が通い合っているとね。相手の想いが伝わってくるんだよ？

「馬鹿じゃないの？やっぱ蛆でも沸いてるみたい。病院行きなさいよ。」

愛しい子に足蹴にされるぐらい、平気・いや。むしろ喜ばしい・だが、それでも蹴られるより撫でられたいのが本音で。

「ねえ。チュウしよつか？」

「…いっぺん死ね。」

届け俺の想い。

繋ぐ、俺達の心。

「まだ死ねないよ。やり残したことがあるんでね。」

ニヤリ、笑ってやった。

君は、頬に触れて - それから俺の額を軽く小突いた。

フン。とスカした顔。

「これでもまだやり残したって？」

伝わって。伝えて。

俺達は理屈なんかメじゃない。なんかできっと、繋がってる。

そう思いたくて仕方がないのは、君に焦がれているからで。

そう思わせる君は、俺にとっての電波塔で。

まるで、プラグとコンセントのように。

どちらかが欠けては意味を成さない。二つ揃って初めて利用価値がある。

「今なら死んでもいいかもね。」

頬には、確かに君の温度が残っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2040y/>

ごちゃまぜ

2011年11月4日04時14分発行